

学校運営協議会 議事録

校名	府立 守口支援 学校
校長名	青木 康子

開催日時	令和 7年 7月 11日（金） 15：30 ～ 17：00
開催場所	B棟2階 図書室
学校運営協議会委員	長谷川 陽一会長（桃山学院大学教授）間宮 大輔副会長（守口市教育センター長）、森口久子委員（学校医）、盛田 昭一委員（錦コミュニティ協議会会長、欠席）、津蔦 貴子委員（門真公共職業安定所統括職業指導官）、藏満 翔子委員（PTA会長、欠席）
本校教職員	青木校長、古賀教頭、永山教頭、松岡事務長、下田首席、西川首席、竹縄首席、坂上高等部主事、南中学部主事、和田小学部主事、堀川健康安全部長、築山進路指導部長、安藤支援自立活動部長、坂和研究推進部長、万代養護教諭
傍聴者	0名
協議資料	・令和7年度 学校運営協議会実施要項 ・令和7年度 学校運営協議会傍聴規則 ・令和7年度 学校経営計画 ・各分掌年間活動計画 ・令和7年度使用教科用図書（選択・採択）一覧表
備考	

議題等(次第順)
1、学校長挨拶 2、学校運営協議会実施要項について 学校運営協議会傍聴規則について 運営協議会委員について 運営協議会会長選出 3、学校運営協議会会長挨拶 4、今年度の学校経営計画について 5、各分掌から学校経営計画の重点目標等の説明 6、各学部の児童生徒の活動の様子について 7、伴走型支援事業について 8、今年度の採択教科書について 9、質疑応答・意見交換 10、今後の学校運営協議会予定について
1. 学校長挨拶 ・児童生徒数 213名（昨年度194名）。小学部の増加が顕著。教室不足が深刻化しており、北河内地区の過密解消対策として令和11年度には 交野支援学校の四條畷校を本校化する計画があるが、本校としてはそれまでの対策が課題。 2. 協議事項 ・令和7年度学校運営協議会 実施要項について ・令和7年度学校運営協議会 傍聴規則について 共に拍手で承認。 3. 学校運営協議会会長挨拶 ・間近にせまる創立30周年記念式典について。子ども達の思い出に残る、温かいものになることを祈念している。 4. 学校経営計画について説明 ・教育活動の充実：ワクワクを“創発”する守口支援学校。ポジティブ・アクティブ・クリエイティブな学校づくり。 ・教職員の資質向上：専門性・人権意識・同僚性の強化。 ・ICTの活用：新ネットワーク環境の整備、教材共有、教職員端末機の新しい活用。 ・防災対策：備蓄品の個別管理、引き渡し訓練、不審者対応訓練。 ・地域連携：創立30周年を契機に地域との交流を強化。 5. 各分掌から学校経営計画の重点目標等の説明 ・教務部：校務支援システム導入準備、シラバスの見直し。 ・総務情報部：ICT教材共有、ホームページの充実。 ・児童生徒指導部：災害時引き渡し訓練、あいさつ運動、通学バス安全研修。 ・進路指導部：職業自立コースの検討、進路先訪問、施設見学。 ・健康安全部：プールの安全管理、熱中症対策、環境整備。 ・支援自立活動部：教育支援計画のマニュアル作成、専門性向上研修。 ・研究推進部：公開授業、出前授業、教員間のコミュニケーション強化。
6. 各学部の児童生徒の活動の様子について 学部主事より各学年の行事の様子を画像とともに紹介 ・小学部:運動会、遠足、校外学習の様子。 ・中学部:運動会、校外学習の様子。 ・高等部:大阪万博、運動会、校内実習、即売会の様子。 7. 伴走型支援プロジェクト（下田首席） ・大阪府初導入の「働き方改革推進事業」。 ・「はなす・つなぐ・つくるプロジェクト」として、教職員の意見を集めて学校改善を目指す。 ・年間を通じてコンサルタントと連携し、教職員の働きやすさと働きがいの両立を図る。 ・7月22日にキックオフミーティングから始動。事前アンケートで先生方からいろんな意見を聞けたら実際の困り感から小さく試し、振り返る、改善する、を繰り返し実施していく。 8. 教科書採択と発信 ・小中高それぞれの発達段階に応じた教科書を採択。 ・教科書の展示と説明を通じて、保護者や関係者への理解促進。

9. 意見交換・質疑応答（要約） ●ICTの分野で保護者や放課後等デイサービス事業所との情報共有の活用について現状と今後の方向性についてお聞かせ願いたい。 （総務情報部長）保護者とのICTを使った情報共有には「安心メール」を使った学校からの連絡や欠席連絡アプリでの保護者からの欠席連絡が浸透し、保護者の利便性向上と教員側の業務効率化につながっている。入学説明会で登録を促す機会を設けており、4月中には100%の登録率となっている。その他ICTを活用した連絡ツールは様々な内容で検討している。放課後等デイサービスとのICTを使った情報共有は、学校からメールでの連絡や事業所側がホームページを閲覧して情報を取得するのみの活用に留まっている。（放課後等デイサービスは各家庭での契約というところで、保護者からの連絡を第一に考えていることもあり、これ以上の検討は図られていない。） ●先生方の研修について、アンケートを取られているということで、その回答の中で「一番受けた研修」を教えてください。 （研究推進部長）一番多かったのは「ICTを活用した授業づくり」という項目が一番多かったと思った。専門性を高める内容であったり、専門的な先生からの意見を聞いてみたい、であったりとか授業見学したいという意見もあった。 ●タブレット使用による視力低下への懸念があり、使用時間や環境整備に配慮してもらいたい。夏季の熱中症対策として、プール学習時のWBGT値の管理や冷却対策の徹底、雷時の対策などに注意してもらいたい。また、外来感染症（ジカ熱等）への備えとして、虫除け対策も海外からの人の流れが増える中、効果があります。 ●先生方がICTの活用を学びたいという意欲は多いに業務量を減らすことができる大きな学びにつながると思う。個人ではなくて学校全体が効率化に向けて積極的に利用してもらえたらいいと思う。 ●今回、子どもたちの“ワクワク”という言葉がたくさん出たが、子どもたちのワクワクを引き出すのに具体的にどうしているか教えてください。 （教務部部長）子どもたちが「もう一度やりたい」と思える授業をめざし、興味・関心を引き出す工夫をしつつ、学習目標とのバランスを重視している。評価観点の変化（中教審答申）を踏まえ、意欲・態度の表現方法を模索していく。 ●今、支援学校だけでなく不登校の問題がものすごく大きな問題になっている。その原因となる起点が、授業の理解が難しいことが不登校に至っているというのがとても大きく感じている。でも、教育の在りようとして、教えるというより子ども達から学びたいという経験、その活力が出てくるものを支援学校の学びの中から見せていただきたいなという思いがある。とても期待をしています。 ●先生方が自己研鑽という時間を働き方改革の中でどのように捉えているか。ポジティブにご自身の時間を捉えるという意味でも重要な観点かなと思います。具体的な認識をお聞かせ願いたい。 （支援自立活動部長）大阪教育大学の土日のセミナーなどに参加したりしている。本校の取り組みとしては、チームで研鑽する方法で、新任教員と先輩教員をペアリングし、授業のことやどんな些細なことでも、親しみやすい教員間の同僚性によって毎日研鑽できている。もっと専門性の高いことは各分掌の各担当者がそれぞれで受けてきた研修を校内で伝達講習という形で周知している。 （首席）夏休みなど長期休暇中は大阪府教育委員会だけでなく様々な団体が研修を開いており、我々も認定講習という形で管理職に申請し、自己研鑽を積んでいる。新しい端末機でできるようになった在宅勤務は自己研鑽を目的とした内容は認められていないが、在宅勤務で自分の時間を確保し、自己研鑽の時間につながっている。私は今夏、社会科教員として少年院の見学に行きます。本校の児童生徒の実態として、関わりは少ないですが知見を広めて自己研鑽としたいと考えている。 ●教職員の働き方改革推進事業、とても素晴らしいことだと思う。伴走型支援プロジェクトの成功を期待している。 ●先生方が授業づくりをして行く上でICTを使うことで便利だと感じることやご自身で使用されているICTの環境を教えてください。 （総務情報部長）ICTの使い方の部分では、新しく更新された教職員端末機が授業環境を変えるもの思ってる。Microsoftのアプリが複数あり、全体研修でTeamsを使い、資料を素早く共有したり、CopilotっていういわゆるAIアプリで業務削減が図れたりでき、最近便利に感じている。 ●最近の中教審答申の中で話し合われているのが、ICT機器を教師がどう使うか、ではなく子どもたちがどうやって使っていくか、社会に出たときにどううまく使いこなせるかという部分であるが、子どもたちに向けてのICTを使った教育環境の方針を教えてください。 （総務情報部長）一人一台端末を使って様々な授業で活用しているが、やはり子ども達につけたいところは調べ学習などで自分で調べて答えにたどりつくことができるなど、自立に向けてできることを増やすことが一番必要な部分かなと思う。 ●教育自己診断アンケートで、「先生たちはICTを活用・工夫している」が90%ぐらいなのに対し、保護者・子ども目線で見るとそれ感じてないという結果を見ると、保護者にうまく伝わっていないと感じる。私が守口市の小中学校を見ていていいなと思うのは授業内容を学級通信に出している先生がいて、この道德の授業はこんな仕掛けをしてこんなあのこういう気持ちを引き出したいから、こんな目的のために授業をしている、この算数はこういうところを引き出したからこんな教材を準備しているという部分を発信していること。保護者の皆様にもそういう先生方が頑張っている部分を効率よく発信することで、理解が進むと思う。 （首席）学級通信での授業紹介は取り組めるように検討していきます。 ●その最近の中教審答申の中で今一番ニュースになっていた、観点の中の「関心・意欲・態度」が「主体的に学習に取り組む態度」に変わり、小中学校では評定から外されるという部分は支援学校の方でも反映される部分もあると思うが、評価に入れる先生方の言葉は児童生徒にとって励みになっていると思う。そういう部分を大事にもらえたらなと思います。 拍手をもって学校経営計画が承認された。 10. 連絡事項 今後の学校運営協議会の日程 第2回 11月 7日（金）15：30～ 第3回 2月13日（金）15：30～	
--	--

次回の会議日程	
日時	令和 7年11月 7日（金） 15：30 ～
会場	府立守口支援学校 B棟2階 図書室